

第 2 1 期 第 3 回 八尾市図書館協議会会議概要

日 時 平成 3 1 年 3 月 8 日 (金)

1 4 時 0 0 分 ~ 1 6 時 0 0 分

場 所 八尾市青少年センター 3 階集会室

出席者 (敬称略)

松井 純子 (大阪芸術大学教授)
江岡 信行 (八尾市青少年育成連絡協議会)
松井 祥一 (八尾市校長会)
清水 大輔 (八尾市 P T A 協議会)
西村 一夫 (元松原市民図書館長)
前川 和子 (元大手前大学教授)
仙田 ひろ子 (大阪府立中央図書館 司書部長)
川窪 和子 (大阪市立中央図書館 利用サービス担当課長)
稲垣 房子 (元奈良大学教授)
池田 多瑛 (公募市民委員)
喜多村 洋子 (公募市民委員)

欠席者

二宮 久子 (八尾市社会教育委員)

事務局

田中 淳二 (生涯学習担当部長)
万代 辰司 (教育総務部次長)
谷 裕之 (八尾図書館長)
松田 勝人 (教育総務部参事)
伊藤 均 (山本図書館長)
川端 良昇 (八尾図書館長補佐兼志紀図書館長)
筒 暁子 (八尾図書館利用サービス係長)
森尾 憲 (八尾図書館資料係長)
松井 浩一 (山本図書館係長)
丸谷 奈緒美 (八尾図書館資料係主査)
小畑 由季 (八尾図書館司書)
喜多 由美子 (志紀図書館司書)
住本 和美 (龍華図書館長：指定管理者)
岡 告美 (龍華図書館館長補佐：指定管理者)

【 議事概要 】

1. 議案

(1) 平成31年度八尾市立図書館事業計画(案)について

委員：レファレンスサービスが図書館業務の一つだと、知らない利用者もまだまだおられると思うので、ぜひ利用者へPRをお願いしたい。

事務局：図書館としても、レファレンスサービスを利用いただきたいので、PRに努めてまいりたい。

委員：図書館サービスを進めていくうえで、計画を立てられ頑張りが表れているが、利用者からの提案箱への意見の対応も含めて、これらに対する予算について教えてほしい。

事務局：現在3月議会定例会が開催中で、また4月には選挙もあり6月に全体予算が確定するので、本日、お示しできる状況になく、ご理解いただきたい。

委員：子どもの読書活動の推進には、普段から子どもと接しておられる方々の意見が非常に大切だと思うので、計画策定にあたっては、そのような人たちの参画についてお願いしたい。また、子どもの読書活動の推進を保護者に啓発するような講演会があれば良いと思う。

事務局：2021年度を初年度とする「子ども読書活動推進計画」の策定にあたっては、普段から子どもと接しておられる市民からの意見についても反映していきたいと考えている。また、現在、各図書館では、年齢層に応じた各種イベントを多数実施しているところであり、お示しの講演会を含めて、より子どもの読書活動の推進につながる行事についても検討していきたい。

委員：本市総合計画、本誌教育振興計画の改定が同時期に進んでいくタイミングだと思うので、頑張っている図書館の想いを上位計画の策定の中でもしっかりと位置付けていただきたい。また、図書館協議会においても議論していきたいと考えている。

「子ども読書活動推進計画」の策定にあたっては、パブコメの実施をご検討いただきたい。計画策定のタイムスケジュールが分からなければ市民も参加しにくいだろうし、我々も議論しにくいので、示してもらいたい。

事務局：計画策定のタイムスケジュールについては、今後、決まり次第お示ししていきたい。また、「子ども読書活動推進計画」を策定するにあたっては、パブコメを実施していきたいと考えている。そのような中で、より多くの人の声を吸い上げたい。

委員：第2次図書館サービス計画の策定時には、図書館の職員で構成された策定会議の開催、利用者との意見交換会を3回、団体貸出グループや、パブコメの実施など市民の意見を聞いて策定されている。次期計画策定の際にも、管理職員だけでなく、一般職、司書を含め、各層からの意見を幅広く入れていただきたい。

事務局：具体的な策定方法については、現時点ではお示し出来ないが、幅広く意見を取り入れ、反映できるように考えている。

委員：事業計画「1地域の情報拠点となる図書館」に「資料を購入」とあるが、公共図書館で資料を購入するのは当たり前なので、「購入」というより「蔵書の充実整備」ではいかかがか。

次に、「3すべての市民が利用しやすい図書館」に「外国語資料の購入」とあるが、これは敢えて外国語資料を購入するぞという宣言であれば、ここはこのままでいいかなと思う。

事務局：委員の意見を踏まえて文言修正させていただく。

委員：レファレンス研修の計画を知りたい。また電子図書館についてどのように考えているのか。

事務局：レファレンス研修については、現状、府立図書館の研修への参加、日本図書館協会などが実施している育成計画に参加し、資質向上に努めている。府立図書館の出前講座等を活用し、できるだけ多くの司書が受けられる環境を作っていきたい。また、職場内のOJT研修も実施し経験を積み上げていきたい。

電子図書館については、指定管理者より自主事業として提案いただいております。検討しているところである。インターネット環境の普及に伴い、開館時間に関係なく貸出、返却手続きが不要という点、また、文字の拡大など障がい者サービスの充実につながる利点があると考えている。第2次図書館サービス計画にもハイブリット化の促進を位置付けており、利便性の向上、サービスの充実・拡充に向け現在検討中である。

委員：八尾市は年間を通じて、府立図書館で行っている様々な研修に積極的に参加いただいている。経験年数の浅い方向けの研修なども実施しており、その開催時期等の目安については、年度当初にお知らせするようにしているのでご活用いただきたい。

また、事業計画の「3すべての市民が利用しやすい図書館」にも示されているが、府立図書館では障がい者サービスに特化した研修や府立の職員が出向いての研修も行っているのご利用いただければと思う。

委員：事業計画の「移動図書館サービスの充実」のところで、「移動図書館のサービスのあり方について検討」とあるが、どのような問題意識を踏まえてこのように書かれているのか教えていただきたい。

事務局：移動図書館については、H27年8月の龍華図書館開館にあたりステーションの見直しを図り、4箇所廃止、2箇所新設、3箇所移転となった。現状においても、利用状況を見ながらステーション数や箇所について、検討を行うことが必要と考えている。

(2) 平成31年度八尾市立図書館利用に関するアンケートについて

委員：アンケートについて、図書館職員の意見は、取り入れられているのか。

また、問16の表現が固いので「ご存じなのはどれですか、どういうことを期待していますか」の方がいいのではないかと。

事務局：図書館職員の意見も集約し、反映していきたい。また、委員のご指摘については、記入者にわかりやすいように、修正をさせていただく。

委員：中高校生の実態をいかに把握し、図書館としてどういう手立てを講じるのかという点については、図書館単体ではなく学校図書館などどのように連携していくかが必要であり、次の計画には、その視点を取り入れていただきたい。

事務局：学校においては、学習指導要領の中に本を活用し、語彙力の力をつけるということが示されており、各学校においても読書活動に取り組まれているところである。また、学校図書館と市立図書館との連携では、図書資料の団体貸出の実施や学校生活の中での調べ学習のテーマに沿った資料の相談や提供、学校図書館サポーターの研修会、また、ビブリオバトルを開催するなど着実に本に触れる機会、読む機会づくりについて連携を行っているところである。

子供読書活動を進めていくという上では、市立図書館を所管する部署、学校教育を所管する部署、青少年施策を所管する部署などが連携しながら、どう進めるのかという視点で計画づくり

をしながら、それぞれの所管の取り組みを充実させていくという方向で進めていきたいと考えている。

委員：学校図書館法の改正もあり、道が開けてきたところである。八尾市では、今後、本市教育振興計画を策定していかれることと思うが、市立図書館に関する記述について、もう少し前を出していく努力をしていただきたい。

事務局：現行の本市教育振興計画においても、一定、市立図書館については位置づいている。委員の意見を参考にしながら、計画内容については改めて検討していきたい。

委員：前回の議論を踏まえて電子図書館資料の機能充実と問11に文言が修正されているが、電子書籍などの電子図書館機能の充実とすることに変えていただけたら、ハイブリット化としての市民ニーズが見えてくると思う。

事務局：ご意見を踏まえて修正をさせていただく。

委員：問1で6・7を選択された方については、問10以降に答えるようになっており、それでいうと問16はすべての方が答えることになるが、八尾市立図書館を利用していないのに図書館の事業を質問することについて、誤解される恐れがあるので、文言の工夫をお願いしたい。問17については、性別における回答欄があるが、集計の際に、性別によつてのクロス集計をする必要があるのか。

事務局：文言については、検討させていただく。性別については、図書館を利用するにあたっての時間帯についても把握したいので、入れておきたいと考えている。

会長：問17の職業という項目があるが、無職という文言が気になる。(専業主婦や学生を除く)などと限定しないと答えづらいのではないかと。次に問16の認知度の回答欄について、二択となっているが聞いたことはあるが、実際の事業がどのようなものかを知らない場合はどちらに○をすればいいのか。また、二者択一とするのかは、検討の余地があるのではないかと。もう一点、問12のどの図書館を利用したことがあるかというのは、この位置では違和感がある。問2と問12・13を合わせた方が答えやすいのではないかと。

事務局：ご指摘を踏まえて検討する。

2. 報告

(1) 市内4図書館における利用及び活動の報告について

- ・市内4図書館における利用状況および行事予定(1～3月)について
- ・図書館利用者からの提案箱について

会長：利用状況について平成28年度～29年度が減少し、平成29年度～30年度も減少傾向ということであるが、この点についてどのような考えをお持ちか。

事務局：数字で見ていただいたとおり減少傾向にある。原因の特定は難しい部分はあるが、インターネット環境の普及が理由としてあるかと考えている。そのため、資料3にあるように何とか図書館に足を運んでいただけるような企画をし、本を読む機会をつくりながら、読書活動の推進に努めているところである。特に、問題となっているヤングアダルト世代の読書離れについては、関係部署と連携し各種イベント等を相互に企画しながら、少しでも市民の読書活動の向上に努めていきたいと考えている。

委員：市民からの提案の中に、自習席を増やしてほしいという要望があるが、単に学生というわけではなく、社会人への席の確保も必要ではないか。貸出数は減っているが、図書館をひとつの文化的な空間と捉えるのが今の趨勢であり、ネットでは得られない情報があるというのが一つの動きである。図書館で社会人が過ごせる工夫が求められているので、その中で何かできないのかなと思う。

事務局：八尾図書館では、1・2階にソファを設け、社会人の方の閲覧もしていただいております、4階に学習室があり、図書館で借りた資料を自習できる空間を作っているが、時期によっては多くの学生に利用していただいていることもあり、利用が難しいこともある。1・2階の限られたスペースで十分というわけではないが、快適に過ごしていただけるよう環境づくりに努めたい。

委員：平成30年度の利用統計の件ですが、原因の究明は難しいと私も思う。現場は、ご苦労されているのはわかる。府内でも八尾市は実績がある。私からのお願いは、図書館利用はいかに新しい資料を揃えられるかによるので図書資料費予算の確保をお願いしたい。電子書籍の提供実施を考えているようだが、そうなれば紙の資料費が減少するのではないか。電子書籍を継続的に実施するには多額の予算が必要である。もしされるなら、実際の利用状況など、しっかり検討された上で導入いただきたい。

事務局：予算が限られている中で、雑誌については、歳入確保策として、スポンサー制度の活用で対応させていただいているところであり、図書館として努力はしていきたい。

委員：この資料の利用者数はカウンターを通した人なのか、図書館に来られた人を指すのか。

事務局：貸出人数。

会長：入口のゲート数を精査されることも今後の課題として必要だと思う。

委員：提案箱のご意見で大型絵本について、図書館でも見えるところにおいて欲しいという希望がある。見えるところにおいて欲しいという要望や返却ポストの設置、においの事など、利用者の困ったところ、想いのケアをお願いしたい。

事務局：大型絵本については、配架スペースの問題があり、難しい課題であるが、何か方法がないか検討したい。その他、利用者の方からいただいたご意見につきましては、可能な限り対応したい。

委員：前の議題ですが、事業計画の中の移動図書サービスのあり方について検討というのですが、空き家対策の再利用などで、恩智の町ライブラリーのような活用もひとつの方法だと思うがいかがか。

事務局：まず、移動図書館を無くすということは、今のところ考えていない。ステーションについて、現状のままでいいのか、検討を進めていくところである。
空き家対策の再利用など、まちライブラリーのような活用については、今後の参考にさせていただきたい。

会長：次回の図書館協議会は、いつ開催するのか。

事務局：6月の議会の関係もあるので、会長と調整し、7月ごろに調整させていただく。